

平成29年度病害虫発生予報第9号

平成29年12月1日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺数は平年並	± ±
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺数は平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並	± ±
	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—
	コナジラミ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	—
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は平年並	— ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	－
	ハダニ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

コナガは、春先気温が高くなると生育が早くなり、発生が増加するため、今のうちに防除しましょう。発生しているほ場では、収穫後は残渣を速やかにすき込み、発生源を除去しましょう。

ハクサイベと病が発生しているほ場があります。病斑上にできる分生胞子によって空気伝染するので、発病葉などはほ場に残さず、適切に処分しましょう。本菌はカブやコマツナにも感染するので、周辺の作物についても注意しましょう。

キャベツ菌核病の発生が多いほ場があります。発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。10月31日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第9号」を参考にしてください。

施設野菜では、この時期、保温のため施設を閉め切ると湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすい条件となります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

トマトでは、すすかび病が多発しているほ場があります。湿度管理や草勢管理を適切に行うとともに、発生しているほ場では防除を徹底しましょう。また、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を、コナジラミ類がトマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。

ナスでは、ハダニ類の発生しているほ場があります。発生を確認したら速やかに防除しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生が多いほ場があります。春先気温が高くなるとハダニ類の生育が早くなり、多発しやすくなります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は速やかに防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1 か月予報（名古屋地方気象台11月30日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり低くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、低い確率70%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 60% 平年並 : 30% 高い : 10%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。